

厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】  
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究  
(分担) 研究報告書

民間クリニックにおける効果的な HIV 検査の実施と質の向上のための研究

研究分担者 井戸田 一朗 (しらかば診療所)  
研究協力者

岩澤 晶彦	岩澤クリニック	中村 幸生	中村クリニック
吉尾 弘	吉尾産婦人科医院	上村 茂仁	ウィメンズクリニックかみむら
伊藤 晋	あいクリニック	角井 徹	すみいクリニック
清滝 修二	セントラルクリニック伊勢崎 医療法人社団	鷺山 和幸	さぎやま泌尿器クリニック 医療法人社団
小林 米幸	小林国際クリニック	高橋 雅弘	薬院高橋皮ふ科クリニック
熊谷 振作	熊谷クリニック	須賀 雅彦	アルファクリニック渋谷
楠山 弘之	永弘クリニック	福地 裕三	あおぞらクリニック新宿院
五島 文恵	林病院	尾上泰彦	プライベートケアクリニック東京 新宿院
川嶋 敏文	川嶋泌尿器・皮膚科医院	瀧 知弘	ひまわりクリニック丹西
新井 律夫	新井医院	水野 泰孝	グローバルヘルスケアクリニック
吉川 琢磨	よしかわ耳鼻咽喉科	佐藤 昭裕	KARADA 内科クリニック
清水 康弘	新宿山の手クリニック	塩尻 大輔	パーソナルヘルスクリニック
小田島 純	新吉原検診所	西大條文一	金王坂クリニック
白川 裕一	八重洲山の手クリニック	蓮池林太郎	新宿駅前クリニック
立山 啓悦	ひろクリニック	吉田 直人	プライベートケアクリニック東京 東京院
根岸 昌功	ねぎし内科診療所	杉本 賢治	京橋杉本クリニック
山口 真澄	池袋山手クリニック	剣木 憲文	銀座ヒカリクリニック
山中 晃	新宿東口クリニック	北村 浩	石神井えんじゅ内科クリニック
内田 千秋	あおぞらクリニック 新橋院	笠井 大介	笠井医院
松村 健太郎	渋谷山の手クリニック	福地 裕三	にじいろクリニック新橋
中山 保世	東新宿こころのクリニック	板東 大晃	神田西口クリニック
操 裕	操健康クリニック	石井 誠剛	イシイ内科クリニック
多和田俊保	たわだ泌尿器科	田中 雅之	KARADA 内科クリニック渋谷
保科 眞二	保科医院	佐野 貴子	神奈川県衛生研究所
大里 和久	大里クリニック	近藤真規子	神奈川県衛生研究所
谷口 恭	太融寺町谷口医院	今井 光信	田園調布学園大学

## 研究要旨

2020-2021年のアンケート調査では、研究協力施設の民間クリニックにおける HIV 検査数はむしろ増加し、検査へのニーズは保たれていた。民間クリニックにおける HIV 陽性率(0.23-0.27%)は、2020年の保健所の陽性率(0.42%)と郵送検査(0.08%)の中間に位置し、96%の陽性者がケアにつながったことを確認できた。民間クリニックでは、受検者の利便性やニーズに合わせた検査サービスが提供されており、自発的検査相談以外にも提供者主導の検査相談の両方が可能で、陽性者を高率にケアにつながっている。研究協力施設の民間クリニックは、パンデミック下においても、わが国における HIV 検査実施機関として重要なインフラを担っていると言える。パンデミックの検査数への影響が少なく、治療へのアクセス率の高い民間クリニックにおける検査体制の拡大は、行政検査における HIV 検査機会の縮小の危機を軽減する上で重要と考えられた。

### A.研究目的

民間クリニックにおける HIV 検査は、HIV 検査相談機会を拡大する上で、下記の多角的な利点を有すると考えられる。

1. 保健所等の既存の検査インフラが実現できなかった場所や時間帯での、検査を希望する受検者の利便性に立った自発的検査と相談 (voluntary counseling and testing: VCT)としての検査サービスが提供できる

2. 性感染症 (sexually transmitted infection: STI) の合併を含む感染リスクのある個人に対し、医療者が機会を逃さず HIV 検査を勧めることができる (提供者主導の検査と相談もしくは provider-initiated HIV testing and counseling: PITC)

3. 万が一 HIV 感染が判明した際に迅速な介入や医療連携が可能である

そこで、本分担研究では、下記を目的に研究を行った。

- ① 全国の研究協力施設 46 施設を対象に、民間クリニックにおける HIV および STI 検査の実施状況と課題を明らかにすること
- ② モデルとなる協力施設と研究班のネットワークの構築
- ③ 民間クリニックにおける HIV 検査相談の質の担保のために必要な支援を検討

### B.研究方法

#### 【2019 年度】

既存の HIV 検査研究班で 2014 年までに確立された、41 箇所の HIV 迅速検査を実施する民間クリニックと HIV 研究班とのネットワークは、2015 年 3 月に HIV 検査研究班の終了に伴い喪失したものの、検査研究班ウェブサイト (HIV 検査・相談マップ <https://www.hivkensa.com>) には 33 施設が引き続き掲載されてきた。

2016 年から 2019 年の間に、HIV 検査・相談マップへの掲載を新規に希望する問い合わせが 18 の医療機関よりあった。2019 年に、新たに HIV 検査研究班が立ち上がった。HIV 検査・相談マップ掲載のための施設基準を設け (資料 1)、既存の 33 施設と新規希望の 18 施設に対し誓約書 (資料 2) と共に郵送し、研究協力施設としての登録を継続する上で、毎年誓約書の提出と、アンケートへの協力を依頼することとした。既存 33 施設中 31 施設から、新規 18 施設中 14 施設から誓約書を回収し、HIV 検査・相談マップに掲載し、研究協力施設として登録した。

#### 【2020 年度】

既存 31 施設、新規 14 施設の計 45 施設に対し、HIV 検査実施状況を中心に、陽性時の対応、HIV/STI 検査費用等に関するアンケート調査票を送付し、結果を集計・解析した。

#### 【2021 年度】

閉院や新規参加に伴い、46 施設となった。2020 年度と同様にアンケートを郵送し、結果を集

計・解析した。

### C.研究結果（資料1・2）

2020年と2021年の回答内容の比較を資料1に示す。2年とも、回収率は87%であった。

#### 1. HIV 確認検査で陽性となった場合、管轄保健所への発生動向調査への届出を行っているか？

約7割の施設で、自施設から管轄保健所に届出を行っているが、スクリーニング検査のみ実施し、拠点病院に確認検査を含め依頼している施設がみられた。

#### 2. HIV 確認検査の陽性者のフォロー

拠点病院へ紹介すると回答した施設が最多で、両年とも5施設で自施設でのフォローが可能と回答した。一部クリニックレベルでHIV診療が行われており（東京、大阪）、都市部においては、HIV診療の裾野が広がっていることが伺わせる。

#### 3. HIV 検査実施件数、届出状況、陽性者のフォロー状況

2020年は26,284件、2021年は31,121件と、2001年本調査開始以降、最多を更新している。ただし、2020年以降は迅速検査以外の検査も含めている。ただし、年間8,000件の検査を実施している、女性SWに特化したSTI検診施設1施設が含まれる。

検査数は施設によって幅があり、1施設あたりの実施件数の中央値は2020年100件、2021年139件であった。HIV確認検査の陽性者数は2020年70件(0.27%)、2021年71件(0.23%)であり、コンスタントに陽性者が検出されている。紹介先に受診できたことを把握できた数は、自施設でのフォローアップを含め、両年とも96%であった。

#### 4. HIV 迅速検査を実施している場合の検査試薬 ダイナスクリーン・HIV Combo（アボット

メディカル社）圧倒的に多く、エスプライン HIV Ag/Ab（富士レジオ社）の採用は減少傾向にある。

### 5. HIV 検査費用

自費検査としてのHIV抗原抗体検査の検査費用は、回答のあった施設における中央値は、2020年5,000円から2021年5,500円と値上がりしていた。確認検査の費用を自費で実施している施設が含まれていた。

### 6. HIV 迅速検査を実施する場合

患者希望時(VCT)が最多であるが、STIを診断したとき(PITC)と回答した施設が3割程度存在し、わずかであるが割合が増加していた。

### D.考察

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、行政検査の縮小が続く中、民間クリニックにおける検査数はむしろ増加し、検査へのニーズは保たれている。2020年の研究班調査において、保健所の陽性率は0.42%、郵送検査は0.08%であり、民間クリニックにおける陽性率(0.23-0.27%)はその中間に位置する。両年ともに96%の陽性者がケアにつながったことを確認できた（2020年の保健所での受診確認率は86%）。民間クリニックでは、受検者の利便を考えた開院時間や場所の選定、VCT及びPITCの両方が可能であり、陽性者をケアにつなげるための努力がなされている。以上より、研究協力施設の民間クリニックは、パンデミック下においても、わが国におけるHIV検査実施機関として重要なインフラを担っていると考えられた。パンデミックの影響が少なく、治療へのアクセス率の高い民間クリニックにおける検査体制の拡大は、HIV検査機会の縮小の危機を軽減する上で、重要と考えられた。

課題として、下記の2点が挙げられ、次年度以降の研究内容に、実態調査及び課題解決に向けた支援を計画したい。

- ① 確認検査は本来自費ではなく、HIV 感染症疑いの病名の下、保険診療での実施が望ましい  
(HIV スクリーニング検査陽性時は、医学的に HIV 感染症を疑う理由になるため、確認検査の保険適用は混合診療にあたらぬ、梅毒も同様)。
- ② 受診確認は 96%と保健所よりも高いものの、さらに改善させる余地があること

## E.結論

研究協力施設の民間クリニックは、パンデミック下においても、わが国における HIV 検査実施機関として重要なインフラを担っている。課題が判明したため、今後の調査に反映し、課題解決に向けた支援を立案したい。

## F.健康危険情報

なし

## G.研究発表

近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、井戸田一朗、土屋菜歩、貞升健志、今井光信、加藤眞吾、櫻木淳一、中澤よう子、今村顕史. 新型コロナウイルス感染症流行禍における HIV 検査体制の実態. 第 35 回日本エイズ学会 (2021 年 11 月 21-23 日)

## H.知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

## (謝辞)

長年にわたり、研究班にご協力頂いた、新井医院、尾関皮膚泌尿器科、渋谷山の手クリニック、八重洲山の手クリニック様に、心からの感謝を申し上げます。

(資料 1 2020 年と 2021 年の回答内容の比較)

	2020 年	(%)	2021 年	(%)
施設数	45		46	
回答数	39	(87)	40	(87)
1. HIV 陽性時の届出				
HIV 確認検査陽性時の保健所への届出の有無	27	(69)	31	(78)
2. HIV 確認検査陽性者のフォロー				
拠点病院へ紹介	31	(79)	34	(85)
自施設でフォローアップ(「状態によって」を含む)	5	(13)	5	(13)
3. 陽性時の届出、陽性者フォロー状況				
HIV 検査実施件数	26,284		31,121	
HIV 検査実施件数中央値	100 (2-8,000)		139 (0-8,000)	
HIV 確認検査陽性数	70	(0.27)	71	(0.23)
確認検査結果を聞きに来なかった数	3	(4)	0	(0)
保健所への届出数	50	(71)	51	(72)
紹介先/自施設での受診確認	67	(96)	68	(96)
4. 使用検査試薬				
ダイナスクリーン・HIV Combo	34	(87)	37	(93)
エスプライン HIV Ag/Ab	5	(13)	3	(8)
5. HIV 検査費用 中央値				
	5,000 (2,900- 10,000)		5,500 (2,000- 8,980)	
6. HIV 迅速検査を使用する場合(複数回答あり)				
患者希望時	37	(95)	38	(95)
STI 診断時など医療側が主導	11	(28)	13	(33)

(資料 2 HIV 検査数と確認検査陽性数の年次推移 (2001-2021 年))

### 民間クリニックにおけるHIV検査数と陽性率の推移



\*2か所のクリニックで入替えあり \*\*2014年までは即日検査限定、2020年は即日検査以外も含む \*\*\*3か所のクリニックで入替えあり